

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

発行代表者 岩切 旻世

編集者 財津 悠子

印刷所 ヤマダスピード製版

主題聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」ローマの信徒への手紙 12章15節

私が神学生であった頃、牧会の現場に立つということが、どのようなことなのか知りたいと思いましたが、そのために牧師の仕事に関する本を、何冊か手に入れて読みました。「現代牧師論」、「牧師の仕事」、「牧師その神学と実践」などです。久しぶりに本を開いてみると、赤や青の線が引いてあり読んだ痕跡が残っています。牧師とされて五年目に入りましたが、按手を受けてから余り開いていませんでした。当時マニュアルのようなものが欲しかったのですが、適かなうものがないと気づいたからです。それでも読み返すと、ヒントをくれることがあります。



マニュアルのない牧会

鹿児島・阿久根 教会牧師

小山 茂

教会の働きの場で何か困った時、決断を求められる時、どうすればいいのか迷うことがあります。この世の知恵と神の知恵の違いを、まだよく分からないからです。私の思いが先に立ちますが、相手の思いはどうなのか、主の御旨はどこにあるのか、時に袋小路に入ってしまう。自分で考えても結論が出せない、困ってどうしたらいいか分からない、もう祈るしかないと思った時が始まります。つまり、自分の限界を認め、そこからスタートラインに立てます。牧師と言う仕事には、成功体験ではなく失敗体験が肥やしになります。

かつて読んだ「傷ついた癒し人」という神学生の必読書があります。その著者であるヘンリー・ナウエンは、さまざまなきを促してくれま。彼の著作は、行き詰まった時にヒントをくれます。彼の著作『今日のパン、明日の糧』で、成功することと実りが多いことは、大きく違くと語りま。成功は報酬と名声をもたらす、実りは弱さと傷つき易さによりもたらされる。人と人との交わりは傷を分かち合って出来る果実であり、親しさは互いの傷に触れることを通して出来る果実です。ここを読んでホッとすると同時に、牧会は改めてたいへんだなと思います。それでも、主が共にいてくださるから、向き合っていけます。



2013年九州教区女性会修養会

みんなで聖書研究

〜共に祈ろう〜 「主の祈り」を学ぶ

6月22日(土) 箱崎教会

今期の修養会は、角本浩先生(神水、松橋教会牧師)をお迎えして、「主の祈り」について学びました。また、ルーテル支援センター・となりびとの野口勝彦先生による活動報告会、つるしびなの展示会も行つことができました。女性会だけでなく、青年会、中高生、壮年会、J3、幼児を含め140名の集いとなり、熱気と恵みに満ちた祈りの時、交わりの時となりました。ホールでの、被災地支援品販売とレインボーハウスのお菓子販売も大盛況でした。ご参加くださった兄弟姉妹、ご協力くださった方々に感謝いたします。

祈るといふこと

甘本教会 本間 明子

今回の修養会は、中学生の娘と参加しました。キャンプで知り合った人との再会など子どもなりに繋がりがあつたことも知りました。この繋がりが広がって、将来の女性会の力となつてくれればいいなと思ひながら会は始まりました。

《祈りについて》角本先生のお話しを聞く中で、思い出すことがありました。私

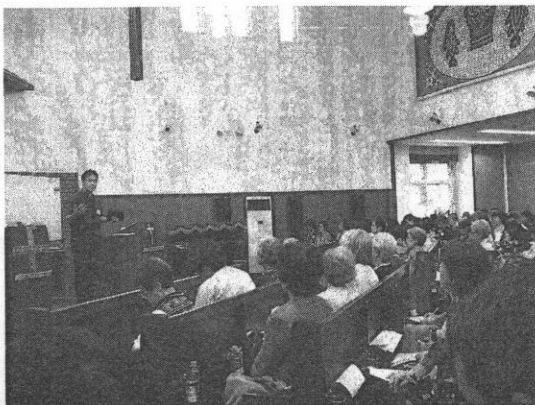
は以前、夫の実家で誰も居ない仏間で祖母が孫一人一人の事を祈つていた光景を目にしたことがあります。孫の嫁の私まで名前が挙がっていたのでそれはとても長い祈りでした。その祈る姿はとても美しく尊いものでした。

続いて《主の祈りについて》の学びでは、ここでもやはり、神さまと自分だけの関係でなく隣人をも巻き込んだ祈りを考えさせられました。これまで、主の祈りを唱える時、「我」ではなく「我ら」と言っていることを意識していません

した。牧師先生がそのことを話された時、「我ら」とは現在礼拝に集まつている会衆だけではないと思ひました。今教会が在るのは、かつてこの地を開拓してきた先人がいて、それを私たちの時代に繋げてくれた先輩がいます。その人たちはきつと私たちのことを祈つてくれていた筈です。それならば私たちは、教会に来る未来の人たち、会員だけでなく、求道者の人も、子どもたちや教会に繋がる人のために「我らの…」と祈りに覚えたいと思ひました。

ワークショップでは、今まで話したことのない方とペアになりました。他の人が私の事を私にはない言葉で祈つてくれた。新しい本を読むような新鮮な感覚でした。反対に私が相手のことを祈る番になつて、少しドキツとしました。もしかするとその方は人にその悩みや願いを話すのは初めてかもしれないし、その人の心の中を垣間見ることへ「私が聞いていいのかな」というような小さな責任のようなものも感じたりして…。でも、近い人には言えないことも、今日初めて話す私だから話せることもあるかも…と真摯な気持ちで祈ることができました。このワークショップで、人のことを祈りつても逆に自分の気持ちが照らし出されるような気がしました。

祈りとは弱い自分と向き合うと同時に大きな力を与えてくれるものだと思ひ改めた感じた学びの時となりました。



角本先生による「主の祈り」の学び



互いに祈り合う